

永吉 雅弥 さん

健康・スポーツ教育課程 スポーツ科学コース
鹿児島県（中学校保健体育教諭）内定
鹿児島城西高等学校出身



■ 学校種を目指したきっかけ

中学2年生のとき、担任の先生との出会いが大きな転機となりました。それまでは「授業を受けるために学校に行く」という感覚でしたが、先生から学校は勉強だけでなく、仲間と協力する楽しさや、目標に向かって努力する喜びを学ぶ場であることを教わりました。その経験から、「教員という仕事は子どもの心を大きく動かせる職業だ」と感じ、教員を志すようになりました。

■ 大学での学び・教育実習での経験

教育実習では、マット運動の授業を担当しました。大学で学んだ「教材研究や授業準備の大切さ」を実践するため、部活動の指導後、毎日17時半から21時過ぎまで指導教官と共にマット運動の練習や授業内容の確認を行いました。

時間をかけて取り組むほど、子どもたちの反応が良くなり、授業の内容もより深まっていくことを実感しました。

また、子どもが技を習得していく喜びが、そのまま自分自身の喜びとして返ってくる仕事であることも、身をもって感じることができました。

■ 採用試験でのアピールポイント

「一つの目標に向かって最後まで取り組むことができる点」を強みとしてアピールしました。3歳からサッカーを続け、全国大会出場を目指して努力してきました。結果として全国大会に出場することはできませんでしたが、その経験から、目標に向かって取り組む大切さや仲間と協力することの重要性を学びました。大学生になり、"負けたことがある"という悔しさが教員を目指すにあたって、どんな時でも諦めず取り組むことができました。

■ 教職センターでのサポート

教職センターでは、主に面接指導と実技指導で大変お世話になりました。面接では自分の気持ちを言葉にすることが難しく、何度も練習を重ねたことで本番では自信を持って話すことができました。実技では、できるようになるだけでなく、合格に必要なポイントや、苦手種目でも点数を取るための練習を重点的に行いました。特に必修の水泳はいちばん苦手でしたが、先生方の指導のおかげで乗り越えることができました。また、ゼミや教育学部の先生方にも夜遅くまで支えていただき、感謝の気持ちでいっぱいです。



■ 目指す教員像

「苦しいことを乗り越えた先に楽しさがある」ということを子どもたちに伝えられる教員になりたいです。目標に向かって努力することは簡単ではありませんが、どんな生徒でも最後まで支えられる存在でありたいと考えています。また、夢や目標がまだ見つかっていない生徒にも、一生懸命になれるものを一つでも見つけられるような教員になりたいです。

■ 後輩へのメッセージ

保健体育の教員は狭き門と言われますが、「絶対に教員になる」という強い覚悟を持ち続けることが大切だと思います。日々の生活の中でも、教員になるために何が大切かを考えながら過ごすことが、採用試験でも必ず役立ちます。諦めず、自分の信念を大切に取り組んでください。